

6.

教育プロジェクト

- 1) 国際教育交流プログラム
「AIT ワークショップ」
- 2) 大学院特別講義
- 3) 専任教員担当講義

1) 国際教育交流プログラム「AIT ワークショップ」

■AIT ワークショップ

開発とジェンダーの問題をグローバルに研究する教育プログラム

15 年目を迎える国際教育交流プログラム

AIT ワークショップは、2001 年に本学ジェンダー研究センター（2015 年度からジェンダー研究所）所属教員と、アジア工科大学院大学（Asian Institute of Technology、通称 AIT）「ジェンダーと開発」専攻の、日下部京子教授らの尽力によって始められた、国際教育交流プログラムである。

大学院博士前期課程「開発・ジェンダー論コース」において、開発とジェンダーという核となる主題に関して、ジェンダーの理論的枠組みを習得するとともに、フィールドワークを通して開発の現場での知見を得、それらを総合する学びの場を提供するために開始された。

第 3 回までの実績により、2004 年 12 月には、本学とアジア工科大学院大学との間で、「ジェンダーと開発分野」に関する大学間学術交流協定が結ばれた（当協定は 2009 年に交流領域の拡充が図られ、2013 年には、2004 年の協定で 1 か月以内だった交換留学生制度が 1 年以内に改訂され細目も定められた）。

第 4 回以降は、この協定に基づき、ジェンダー研究センター（研究所）と AIT 環境資源開発研究科により、タイ AIT で実施されるワークショップへの本学博士前期課程院生を主とする派遣と、AIT 大学院生の日本国内での研修受入による、大学院生を主体とした研究交流事業を、ほぼ毎年実施している。

2012 年度からは、AIT ワークショッププログラムが、ジェンダー研究センターが従来提供してきた大学院博士前期課程科目「国際社会ジェンダー論演習」として単位認定が始まった。2013 年度はサマープログラムを活用して AIT 院生の日本国内研修を実施し、2014 年度からは大学院前期課程科目「フィールドワーク方法論」を国内事前研修として取り入れ、以上の経緯を経て、本年度で 14 回目を迎えた。

グローバルなフィールドでの理論的検討と実践的学習

本教育プログラム（「国際社会ジェンダー論演習」）の目的は、開発とジェンダーにかかわるグローバルな課題群の分析方法や視座、海外におけるフィールド調査の基礎を、実践的に学習することにある。

大学院講義の事前学習（関連機関での調査）、調査して得た知見の英語によるプレゼンテーション、報告書作成という一連の調査研究の研修を通して、修士論文作成のための技能を習得する。加えて、英語によるインタビュー、プレゼンテーション、論文執筆の訓練機会にもなる。

このような充実したプログラムを通して、参加者は開発の問題をジェンダー視点から考察することの意義を、皮膚感覚と理論的観点からより深く把握することができるようになる。また AIT に集まるアジア各国の院生の熱意ある議論スタイルや問題関心の多様さから刺激を受け、研究手法や語学のブラッシュアップへの動機づけを得る。

その結果、研究者としての議論の組み立て方や調査方法、研究アプローチについて際立った効果が参加者には見られるのであり、本プログラムは比類のない教育効果をもっていると言える。

■AIT ワークショップ過年度実績

実施年度	研修テーマ
2001	Gender and Development ジェンダーと開発
2002	Gender, Work and Globalization ジェンダー、労働、グローバリゼーション
2003	Women, Globalization and Home-based Work 女性、グローバリゼーション、在宅労働
2004	Female Migrant Workers' Rights in Thailand タイにおける女性移動労働者の権利 【協定締結】
2005	Gender and Development in Thailand: Labor rights and violence against women タイにおけるジェンダーと開発：労働者の権利と女性に対する暴力
2006	〔実施せず〕
2007	Gender, Rights and Empowerment ジェンダー、権利、エンパワメント
2008	Thailand-Japan Interactive Research Actions by Using Gender Perspectives ジェンダー視点によるタイ・日本相互研究
2009	Gender and Policy: Through Thailand-Japan Interactive Analysis ジェンダーと政策：タイと日本の相互分析を通して
2010	Gender and Social Change: Comparative Analysis of Thailand and Japan ジェンダーと社会改革：タイと日本の比較分析
2011	Gender and Disaster ジェンダーと災害〔特別プログラム：本学でのシンポジウム開催〕
2012	Sexuality セクシュアリティ
2013	Global Justice, Women's Health and Prostitution グローバル・ジャスティス：女性の健康と売春
2014	1) Sexuality, 2) Gender and Poverty, 3) Education and Empowerment 1) セクシュアリティ、2) ジェンダーと貧困、3) 教育とエンパワメント
2015	Labor, Sexuality and Empowerment 労働、セクシュアリティ、エンパワメント

2015 年度 AIT ワークショップ

「労働、セクシュアリティ、エンパワメント」をテーマに実施

【概要】

「Labor, Sexuality and Empowerment」をテーマにした 2015 年度の AIT ワークショップは、国内事前研修（大学院博士前期課程科目「フィールドワーク方法論」4/8～7/22）、AIT 院生 4 名の受入（5/11～5/18）、タイ AIT での研修（8/16～8/24）、研修報告会（11/30）、報告書作成というプログラムで行なわれた。

日本とタイでのフィールドワーク実践によって、参加院生のフィールドワーク力は鍛えられ、その過程での調査や討議によって各自の研究テーマの深化に大きく貢献したものとなった。

【プログラム統括】 申 琪榮（ジェンダー研究所准教授）

板井広明（ジェンダー研究所特任講師）

【コーディネーター】 張 瑋容（博士後期課程・ジェンダー学際研究専攻）

【履修生】 大類由貴（博士前期課程ジェンダー社会科学専攻 開発・ジェンダー論コース）

佐々木奈摘（博士前期課程ジェンダー社会科学専攻 開発・ジェンダー論コース）

高橋加織（博士前期課程ジェンダー社会科学専攻 地理環境学コース）

松木香凛（博士前期課程ジェンダー社会科学専攻 開発・ジェンダー論コース）

【AIT からの研修生】 Rajan Parajuli（博士課程）

Desiree Michelle Barcelon-Soreda（修士課程）

Le Nguyen Lan Chi（修士課程）

Yin Yin Min（修士課程）

◇全プログラム日程

日程	内容
4/8（水）～7/22（水）	フィールドワーク方法論（全 15 回） 講師：大橋史恵（武蔵大学准教授）
5/11（月）～5/18（月）	AIT 院生 4 名来日研修
8/16（日）～8/24（月）	タイ AIT 研修
11/30（月）	タイ研修報告会 
～1 月	報告書作成

国内事前研修

2015 年度の AIT ワークショップは「労働、セクシュアリティ、雇用 (Labor, Sexuality and Empowerment)」をテーマに、博士前期課程ジェンダー社会科学専攻の 4 名が参加した。ワークショップのコーディネーターを担ったのは張瑋容（博士後期課程ジェンダー学際専攻）である。

大学院科目での国内事前研修は 4/8（水）～7/22（水）に全 15 回行なわれた、大橋史恵講師（武蔵大学准教授）による「フィールドワーク方法論」である。資料の探し方や扱い方、細かな研究倫理の問題等をはじめ、論文における引用の仕方や文献リストの作り方、フィールドワークのプランニングや実践における注意点といった基礎的事項が講じられた。佐藤郁哉『フィールドワークの技法：問いを育てる、仮説をきたえる』、新曜社、2002 年も利用しつつ、フィールドワーク実習として、アジア女性資料センターを 2 度訪問している。

研究交流研修

5/11（月）～5/18（月）には、Rajan Parajuli（博士課程）、Desiree Michelle Barcelon-Soreda（修士課程）、Le Nguyen Lan Chi（修士課程）、Yin Yin Min（修士課程）の 4 名が AIT から来日して研修を行なった。IGS を含めたお茶大内の施設や男女共同参画センター横浜（フォーラム）などの訪問、上記「フィールドワーク方法論」クラスでの研究発表や棚橋訓ゼミ（大学院）参加、アジア女性資料センターと代々木タイフェスティバルでのフィールドワークなどを行なった。

8/16（日）～8/24（月）は上記 4 名の院生がタイにある AIT での研修にのぞんだ。タイに滞在中は、JICA Thailand Office、Thanyaporn Reception Home for Girls、ILO Asia and the Pacific in Thailand、End Child Prostitute in Asian Tourism (ECPAT)、EMPOWER Foundation、Plan International Thailand、Thai Transgender Alliance (TGA)、Forward Foundation を訪問・調査し、AIT 授業 Gender and Development: Principles and Concepts に出席し、AIT での研究報告会をこなした。

研修報告会

11/30（月）12 時 20 分～14 時には板井広明ジェンダー研究所特任講師のコーディネートのもと、ユン・ジソ カンザス大学准教授も参加して、研修報告会を開いた。参加院生 4 名が各 15 分ほどの報告と 5～10 分ほどの質疑応答を行なった。いずれの院生も、取材先の個人情報の保護や取材のまとめ方など、前期に受講した「フィールドワーク方法論」の授業で得たことが大いに役に立ったと述べており、またタイの JICA 事務所や現地のシェルター、セックスワーカー向けのエンパワー事務所、持続可能な開発に基づく支援を行なう施設などを見学し、修士論文を書く上で必要な取材をある程度行なうことで、それぞれの研究対象の問題点などを明確化するのに、このワークショップは役立ったとのことだった。同世代の AIT の学生とのジョイント・セミナーは、さまざまなアプローチや知見を得られて、刺激的だったようである。

研修報告会での報告をもとにして、現地での調査や授業風景などの画像、現地情報などを取り入れた報告書を 2016 年 1 月には完成させた。

◇フィールドワーク方法論（全 15 回）講師：大橋史恵（武蔵大学准教授）

回	実施日	内容
1	4/8	オリエンテーション
2	4/15	資料調査の方法について
3	4/22	AIT ワークショップのテーマ確定
4・5	5/13	AIT 生との交流 *研究発表：13:00～16:00（2 コマ連続） * アジア女性資料センターでの聞き取り：17:00～18:00
6	5/16	AIT 生とのフィールドワーク（代々木タイフェスティバル）
7	5/27	文献講読（1） 佐藤郁哉『フィールドワークの技法：問いを育てる、仮説をきたえる』、新曜社、2002 年）
8	6/3	文献講読（2）
9	6/10	文献講読（3）
10	6/17	質的フィールドワークの技法（1）
11	6/24	質的フィールドワークの技法（2）
12	7/1	日本でのフィールドワーク準備
13・14	7/15	日本でのフィールドワーク アジア女性資料センター
15	7/22	AIT 派遣生の資料調査発表

◇AIT 生来日研修

実施日	内容
5/11（月）	到着、歓迎会
5/12（火）	ジェンダー研究所、 大学附属図書館、 グローバル協力センター訪問 ジェンダー研究所にて 
5/13（水）	フィールドワーク方法論クラスにて研究発表 フィールドワーク：アジア女性資料センター
5/14（木）	グローバルリーダーシップ研究所訪問 江戸東京博物館見学
5/15（金）	男女共同参画センター横浜（フォーラム）訪問 棚橋ゼミ（大学院）出席
5/16（土）	フィールドワーク：代々木タイフェスティバル
5/17（日）	送迎会
5/18（月）	帰国

◇タイ研修日程（8/16～24）

日程	訪問先等
8/16（日）	バンコク着
8/17（月）	JICA Thailand Office 調査 Thanyaporn Reception Home for Girls 調査
8/18（火）	ILO Asia and the Pacific in Thailand 調査 End Child Prostitute in Asian Tourism (ECPAT) 調査 EMPOWER Foundation 調査
8/19（水）	Plan International Thailand 調査 Thai Transgender Alliance (TGA) 調査 Forward Foundation 調査
8/20（木）	AIT 授業 Gender and Development: Principles and Concepts 出席 アユタヤ見学
8/21（金）	研究報告会  日下部京子先生と
8/22（土）	自由行動
8/23（日） ～8/24（月）	帰国

2) 大学院特別講義

■上野千鶴子(本学客員教授／立命館大学特別招聘教授／東京大学名誉教授)大学院特別講義

基礎から応用まで ジェンダー研究者への道を拓く講義を提供

2015年度は、大学院ジェンダー学際研究専攻の企画にジェンダー研究所が協力することにより、人文社会系大学院特別講義講師として、上野千鶴子東京大学名誉教授を招聘した。

全7回の講義では、基礎から応用まで、幅広い内容の密度の濃い講義が行われ、前期および後期大学院生、研究生が積極的に参加した。大学院講義の一環として、日本学術会議シンポジウム「均等法は『白鳥』になれたのか」、IGS 国際シンポジウム「ジェンダーで見る新自由主義・政策・労働」、IGS セミナー『何を怖れる』上映会への参加も組み込まれた。

受講者は、上野氏が登壇するシンポジウムを拝聴または指定文献購読後、各自考えたことをレポート形式でまとめ、講義内で発表、それに対して上野氏がリプライや補足説明を行ったり、映像や文献を基にそれぞれの専門分野や研究テーマ、フィールドを踏まえて議論を行なうなど、内容は多岐にわたった。

『何を怖れる』上映会後には、各自が社会運動と研究との関係やこれまでの歩みに触れる等、フェミニズムの捉え方や世代間での継承についても語り合う貴重な機会となった。

全体を通して受講生自らが主体的に考える内容となっており、それぞれがジェンダーの視点を通して考察を深めていくための重要な示唆を得ることができたといえる。ジェンダー研究者への道を拓く有意義な機会を提供することができたと言えよう。

2015年度 大学院特別講義 提供プログラム

上野千鶴子(本学客員教授／立命館大学特別招聘教授／東京大学名誉教授)大学院特別講義

講義日	主題
2015.10.25	日本学術会議シンポジウム「均等法は『白鳥』になれたのか」
2015.10.28	シンポジウムフォローアップ講義
2015.12.01	IGS 国際シンポジウム「ジェンダーで見る新自由主義・政策・労働」
2015.12.03	シンポジウムフォローアップ講義
2015.12.04	IGS セミナー『何を怖れる』上映会とフォローアップ講義
2016.01.27	ドキュメンタリー『日本人は戦後何を考えてきたのか』視聴およびフォローアップ講義
2016.01.28	文献講読『女たちのサバイバル作戦』上野千鶴子著

3) 専任教員担当講義

《人間文化創成科学研究科博士後期課程ジェンダー学際研究専攻》

足立真理子（教授）

ジェンダー政治経済学（前期）
フェミニスト経済学（前期）
ジェンダー政治経済学演習（後期）
フェミニスト経済学演習（後期）
ジェンダー学際研究論文指導（通年）
ジェンダー学際研究報告（基礎）（通年不定期）
ジェンダー学際研究報告（発展）（通年不定期）

申琪榮（准教授）

比較政治論（前期）
比較政治論演習（通年不定期）
ジェンダー学際研究論文指導（通年不定期）
ジェンダー学際研究報告（基礎）（通年不定期）
ジェンダー学際研究報告（発展）（通年不定期）

《人間文化創成科学研究科博士前期課程ジェンダー社会科学専攻》

足立真理子（教授）

ジェンダー社会経済学（前期）
開発ジェンダー論特論（前期）
ジェンダー基礎論（前期）
国際社会ジェンダー論（後期集中）
ジェンダー社会経済学演習（後期）
国際社会ジェンダー論演習（後期集中 [AIT ワークショップ]）

申琪榮（准教授）

フェミニズム理論の争点（前期）
開発ジェンダー論特論（前期）
フェミニズム理論の争点・演習（後期・サバティカル）
ジェンダー社会科学論（通年）

《学 部》

足立真理子（教授）

文教育学部 グローバル化と経済（1 学期）
文教育学部 グローバル文化学総論（前期）

申琪榮（准教授）

ジェンダー8 政治・政策とジェンダー（前期）